

2025 年 9 月 11 日 第 163 回運輸政策コロキウム～ワシントン・レポート XXI～
奥田専務理事 開会挨拶

皆様こんにちは。

ただ今、紹介がありました、運輸総合研究所専務理事でワシントン国際問題研究所長の奥田でございます。第 163 回運輸政策コロキウムの開催にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

まず、本日はオンラインのみの開催ではありますが、大変多くの皆様にご視聴の申込みをいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、今回で 21 回目となる運輸政策コロキウム「ワシントン・レポート」は、2019 年 3 月にスタートして以来、ワシントン国際問題研究所の研究員が自ら設定した課題について真摯に研究し、その成果を発表する場として活用させて頂いております。特に、航空分野においては、「アメリカの航空産業の現状と今後の展望」と題し、定点観測的に研究・分析を行い、継続的にこの場で発表しております。

本日の発表は、福原主任研究員が担当します。福原主任研究員は 2023 年 7 月からワシントン国際問題研究所の次長としてワシントン D. C. に駐在しており、前回は、昨年の 8 月に、米国航空産業のコロナ禍からの回復状況とその前後の質的な変化について発表しました。

今般は、「市場の最新動向と LCC サービスの持続可能性」という副題の下、米国航空分野の需給・経営状況を含む最新動向とともに、現在、そのビジネスモデルの持続可能性が注目されている米国の格安航空企業（LCC）の実像に関し、研究成果を思う存分発表して貰いたいと思います。

本日は、福原主任研究員の発表の後、コメンテーターとして、昨年10月、東京工業大学と東京医科歯科大学が統合されて誕生した東京科学大学 環境・社会理工学院融合理工学系の花岡伸也教授からコメントをいただきます。皆様既にご承知のことと存じますが、花岡教授は、航空政策、国際物流・ロジスティクス、交通開発学を専門として研究していらっしゃいます。また、当研究所の運営委員会委員もお務め頂き、日頃より何かとご助言を賜っております。

その後、屋井運輸総合研究所所長がモデレーターとなり、ご視聴の皆さまも含め、本日のテーマについて議論を深めることができると考えております。

本日の運輸政策コロキウムが、ご参加いただきました皆様にとりまして、真に有益なものとなりますことを期待しまして、開会のご挨拶といたします。

本日は、ご視聴、誠にありがとうございます。